

三越日本橋本店 重要文化財指定へ

株式会社三越伊勢丹ホールディングス(本社:東京都新宿区、代表取締役社長執行役員:大西洋)は、完全子会社である株式会社三越伊勢丹の三越日本橋本店(本館)が、5月20日(金)に開催された文化審議会の答申を受け、重要文化財の指定を受ける運びとなりましたことをお知らせいたします。

三越日本橋本店(本館)は「わが国の百貨店の歴史を象徴する」ものとして評価をいただいております。「戦前期の商業建築を多数建築した横河工務所(現:株横河建築設計事務所)による一貫した設計により、外観はやや簡略化しつつも西洋古典様式に則った重厚な意匠で統一しつつ、内部では重厚な色調で彩られた三越劇場、幾何的意匠の中央ホール、特別食堂など各時代の先駆的な意匠を採用し、全体として極めて質の高い空間を創出しており意匠的に優秀である」と評されております。

「デパートメントストア宣言」をした1904年(明治37年)から110年後、2014年3月に三越日本橋本店は「カルチャーリゾート百貨店宣言」をしました。日本文化の発信拠点として、ファッションだけではとらえきれない日本の美意識を伝える取り組みを行い、楽しい時間を過ごしていただける日本一楽しめる店・遊べる店を目指しています。1914年に三越日本橋本店(本館)が完成してから102年経った今でも、変わらない姿で、お客さまにお買い物を楽しんでいただいております。

【建造物の概要】

建築面積:8,490.88㎡ 構造規模:鉄骨鉄筋コンクリート造、7階建、地下1階、塔屋6所付(指定部分)

【三越日本橋本店(本館)の歴史】

1673年(延宝元年) 越後屋 創業

1896年(明治29年) 屋号を「三井呉服店」に変更

1904年(明治37年) 株式会社三越呉服店 設立 「デパートメントストア宣言」

1914年(大正3年)本館竣工—1921年(大正10年)増改築工事竣工:第1期

・大正3年、鉄骨煉瓦造5階建の本館を新築し、大正10年に高塔を載せた西館を増築した

1921年(大正10年)増改築工事竣工—1927年(昭和2年)修築工事全館完成:第2期

・大正12年の関東大震災による火災で被害を受け、躯体の鉄骨や床スラブを生かしながら、

昭和2年に鉄骨鉄筋コンクリート造7階建として完成、6階に三越劇場の設置

1927年(昭和2年)修築工事全館完成—1935年(昭和10年)増改築工事竣工:第3期

・昭和10年、南側へ増築するとともに中央ホール、特別食堂を設置

1935年(昭和10年)増改築工事竣工—1956年(昭和31年)増改築工事竣工:第4期

1956年(昭和31年)増改築工事竣工—1964年(昭和39年)増改築工事竣工:第5期

・戦後昭和31、32年に増築し一街区を占める現在の規模となった

1964年(昭和39年)増改築工事竣工—2016年現在

※設計は新築から後の増築まで横河工務所が一貫して行い、その多くを中村伝治が主担当を務めた

【主な部分の特徴】

<外観>

全体的に古典様式の文脈で構成されるが、アーチを用いない水平、垂直線を強調した構成や、高塔(金字塔)のアールデコ風の装飾など新しい様式も取り入れる。また昭和10年以降の増築部についても、意匠をやや簡略化しつつも昭和2年建築部の外観と統一感を持たせている。

<中央ホール>

5層吹抜の大空間で、天井はステンドグラスをヴォールト状に配したトップライトとする。柱や梁、手摺廻りは大理石張りとし、手摺グリルやガラスなどをアールデコ風の装飾で飾る。

<三越劇場>

2層吹抜で東にステージを設けた劇場である。壁面と天井は大理石、木彫、石膏整形やステンドグラスなどにより装飾され、グレーを基調として様々な紋様や幾何学模様をペイント色彩で着色するなど、重厚で濃密な空間を構成する。

<特別食堂>

フランスの室内装飾家ルネ・プルーによるアールデコで飾られる。緑色大理石の丸柱や柱頭部の持送り、壁面のグリルなど当時の潮流を示している。

■現在の三越日本橋本店(本館)



【北東側外観全景】



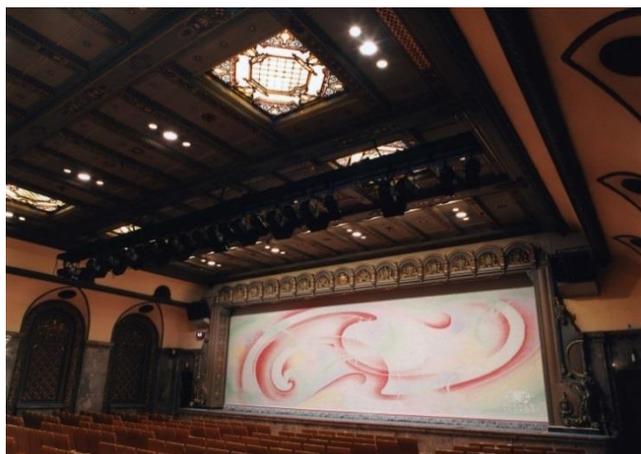
【南西側外観全景】



【大正10年増築時に建築の「金字塔」】



【昭和10年増築時に建築の「中央ホール」】



【昭和2年増築時に建築の「三越劇場」】



【昭和10年増築時に新築、昭和31年、39年修築の「特別食堂」】

＜報道関係 お問い合わせ＞
株式会社三越伊勢丹ホールディングス コーポレートコミュニケーション担当 広報
TEL:03-6205-6003 FAX:03-6205-6009